動物レスキュー通信

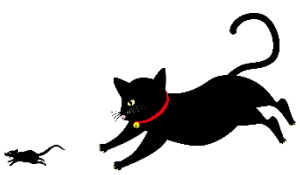
2021年5月 第96号　（令和3年5月1日発行）

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月（しづく）： 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士　一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ ： sizuku.foundation@gmail.com

人とネコの関係 その歴史とネコの起源

今から約5，000年前に古代エジプトで野生のリビアヤマネコが家畜化されたというのが定説です。古代エジプトではこの時、既に収穫した穀物を倉庫に貯蔵する習慣がありました。倉庫に貯蔵してある穀物を食い荒らすネズミ、そのネズミを食べるリビアヤマネコが住み着いたとされているのです。人々にとっては大切な穀物をネズミから守るためにネコとの共生にメリットを感じ、暮らし始めたのだと思います。人間との共生を開始したネコたちは自ら繁殖を繰り返し、現在のネコの形態に変化したようです。しかしその繁殖に人間の手が加わることはなく、猫同士が自由に繁殖しながら、いわば「勝手に家畜化していった」と言うのが正しいようです。そしてたくさんの家庭で大切に飼われるようになります。オスネコはエジプト神話の太陽神「ラー」、メスネコは女神「バステト」の象徴として、当時の人々はネコは自分たちを守る存在だと信じていました。その為、ネコが死を迎えた際には、家族全員が喪に服し、その遺体をミイラにして墓地に埋葬していました。もちろん神の象徴ですので、門外不出の存在となっていました。しかし海外との貿易が盛んとなり、船での運搬の際に積み荷を荒らすネズミを退治するために、船にネコも同乗し、海外へと旅をします。その旅先で船から降りてしまったり、売られてしまったりすることで、やがて世界中にネコが広がっていきました。ネコは新しい土地においてもネズミを退治する役割を果たし重宝がられ、可愛がられて人との共生を始めたのです。しかし新しい土地はエジプトとは気候など、環境が全く異なります。当然、順応できずに短い命を終えたネコもいたはずです。しかし寒冷の地では寒さに強いネコのみが生き残り、反対に温暖な地では暑さに強いネコのみが生き残りました。そして生き残ったネコ同士が繁殖を繰り返し、その土地の環境に適した形態へと進化していったのです。寒冷地方のネコは寒さをしのげるように毛が密に生えていて毛量が多く、身体は大きくてずんぐりとした体形で足は短めです。温暖地方の猫は逆に体温が過剰に上がってしまわないように毛足が短く、身体もスリムな上、足は長めです。現在の猫種は、このような進化をルーツとしています。



日本でのネコ

日本にネコが入ってきたのはと言うと、それは約1，500年前の事。百済の聖明王が欽明天皇に仏像・経典等を届ける際に、経典がネズミにかじられてしまわないように、ネコが一緒に船に乗せられてやってきました。そうやって日本にやってきたネコは、平安時代には「唐猫」と呼ばれて貴族たちの間で大切に飼われていました。そして時代が流れることにより、庶民の間でも飼われ始め大切にされます。古い書物によると犬が外で放し飼いされていましたが、ネコは家の中でつながれて飼われていたようです。この時には既にネズミを退治してもらう事が目的ではなく、珍しいペットとしての価値を見出され、可愛がられていたことが読み取れます。しかし、ネコの数がどんどん増えて行き、珍しい存在でなくなってくると外での放し飼いが当たり前となり、ネコは自らネズミや小鳥などを狩って生きていくようになりました。そして繁殖を繰り返し、日本の気候に合うように身体は進化を遂げ、江戸時代には「日本猫」と呼ばれる形態に進化を遂げました。日本猫は顔、目、耳が丸くて鼻は短め、足は太めのネコです。しかし、残念ながら現在の日本には純粋な日本猫は存在しません。なぜかというと、戦後にシャムネコなどの洋猫が日本に入ってきました。その洋猫の血が混じった雑種が一般的となってしまいました。この雑種も今は「現代猫」として進化していると言えるかもしれません。もちろん現代猫と言い種類があるのではありません。ネコは狩りをして利用を補う、完全肉食動物です。狩りができないネコは生き残ることはできず、狩りを得意とするネコだけが生き残り繁殖し、ハンターの資質を長く維持してきました。しかし私の飼い猫も含み、現代のネコちゃんたちはどうでしょう？完全室内飼いとなり、外に出ることはなく、食事は飼い主さんから総合的に栄養が取れるペットフードが与えられ、狩りをする必要がなくなってしまったのです。それによりネコ本来の野性味や独立心などには乏しいネコちゃんが増えています。その為、いつまでも大人になっても子猫気分。飼い主さんの事を母ネコと考え依存し、常に甘えて過ごすネコちゃんが増えています。そんな飼い主さんをメロメロにするネコちゃんがいわば「現代猫」なのではないでしょうか。

ネコちゃんのルーツを少し頭に入れておくだけで、飼い主さんが問題行動だと思っていたネコちゃんの行動も理解してあげられ、更に親密な仲になれるかもしれませんね。（詩月）